

# 海外で活躍する 山県の人



青年海外協力隊として平成25年10月から平成27年10月までバングラデシュに派遣された江崎百合名さんは、パソコンインストラクターとして首都ダッカの女性技術訓練センターに勤務し、訓練生や現地のインストラクターを指導しました。開発途上国でいろいろな経験をした江崎さんに、手記を書いてもらいました。

## 青年海外協力隊 江崎百合名さん

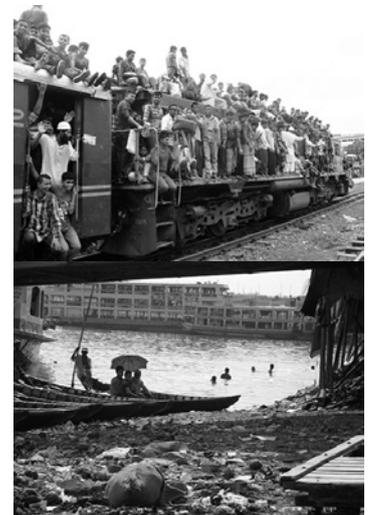
言語スキルよりも大事な  
コミュニケーションの本質

【きっかけ】

「異文化の中で未知のことを経験したい気持ち」そして、「東日本震災をきっかけに生まれた希望を作り出したいという気持ち」、その二つの理由から、青年海外協力隊に参加し、二年の任期で開発途上国で生活していました。

【派遣先はバングラデシュ】

私が派遣されたのは、人口密度世界一と言われるバングラデシュ。「喧騒」という言葉があてはまる首都ダッカは、常にバスや車、バイク、リキシャ、人、野良犬が入り乱れる混沌とした場所であり、熱気にあふれたエネルギーギッシュな場所でもありました。



【コミュニケーションで一番大事な  
こと】

そんなバングラデシュの首都ダッカで、現地の言葉であるベンガル語を使って活動していた私は、伝えたいことがうまく伝えられないもどかしさを感じながら日々過ごしていました。

ですが、この言葉に不自由さを感じる経験が、コミュニケーションで一番大事なことが言語ではないことに気付かせてくれました。

コミュニケーションで一番大事なこと、それは「歩み寄り」ということ。それに気づくきっかけとなったこんなエピソードがあります。

活動先の学校で先生たちにスキルトレーニングを行っていた時のことです。まだまだ未熟なベンガル語での指導でしたが、毎回ある先生には、伝えたい内容がうまく伝わるということが起こっていました。



その理由は、一つしか考えられませんでした。それは、「お互いが伝えたい気持ちと、知りたい気持ちを持つていた」ということ。

よく伝わっていたその先生は、常日ごろから異文化に興味を持ち、私が伝えようとしていた内容にも関心を持っている人、つまり、知ろうとする気持ちが強い人でした。

また、私もその先生の前向きな姿勢をみていたので、他の先生よりもその先生に伝えたい気持ちが向いていました。

このことから、言葉より「歩み寄り」がコミュニケーションの上で大事だと感じました。



**【おしゃべり】**

お互いが日本語を話していても伝わらないことはあります。たくさん話さなくても伝わる、というようなこともあります。こういったことから、コミュニケーションで最も大事なことは、言語ではないといえるのではないのでしょうか。

伝えたい気持ちと知りたい気持ちを持って「歩み寄り」という姿勢であれば、言葉を含め、コミュニケーションの壁は越えていけるはずですよ。

バンングラデシュでの活動当初は、言葉を含めた多くの問題があり、マインスからのスタートに思えました。ですが、歩み寄って助け合うことで、プラスの成果を出すことができ、最終的に信頼や喜び、自信を生みました。

今後、「歩み寄り」を大切に、マインスやゼロからプラスを作り出していくような仕事（活動）をしていきたいと思っています。

**青年海外協力隊とは**

独立行政法人国際協力機構の制度で、20〜39歳の人が自分の持っている技術や経験を生かし、開発途上国の人のために活動するものです。

**ダイヤル 119**

火災・救急・救助は**119** 消防本部 TEL22-0119

**地震の心得 10か条**

地震発生時には、次の心得を守り冷静な行動を心掛けましょう

**第1条 まずわが身の安全を図りましょう。**

なによりも大切なのは命です。地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保しましょう。

**第2条 すばやく火の始末。あわてず、さわがず冷静に！**

地震を感じたら火を消しましょう。消せない場合は、揺れがおさまったらすぐに落ちついて火の始末をしてください。火の始末が大きな被害を防ぎます。

**第3条 非常脱出口を確保しましょう。**

建物内にいるときは、ゆがんで出入口が開かなくなることがあります。

**第4条 火が出たらまず消火をしましょう。**

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求めて、初期消火に努めましょう。

**第5条 外へ逃げるときはあわてずに！**

外に逃げるときは、かわらやガラスなどの落下物に注意し、落ち着いて行動しましょう。

**第6条 狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近寄らないようにしましょう。**

ブロック塀や門柱、自動販売機などは倒れやすいので注意が必要です。

**第7条 山崩れ、がけ崩れに注意しましょう。**

山間部で地震を感じたら、早めの避難態勢を試みましょう。

**第8条 避難は徒歩で、荷物は最小限にしましょう。**

指定された避難場所に徒歩で避難し、車は使わないようにしましょう。

**第9条 みんなが協力し合って応急救護に努めましょう。**

お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合いましょう。

**第10条 正しい情報を聞きましょう。**

うわさやデマに振り回されないようにし、テレビやラジオで正確な情報を知りましょう。